

絶景に感動、
増やしたい郷土の自然美

昨年の夏は10数年振りの冷夏に見舞われ、農作物は不作だったが、2つの『自分史賞（文学賞・大賞）』に出品することができた。自分の生きざまを250枚の原稿用紙にまとめる仕事は大変だったが、終わってみると満ち足りた気分になり、さわやかな感動を覚えた。

感動したことがもう一つある。

11月1日に家内と2人で川上公園へ行くと、ドウダンツツジが鮮やかな虹色に輝き、周囲は真っ黄色に染まって、まるで極楽浄土を思わせるかのような、静寂に包まれた絶景だった。日本の秋や郷土の秋、同時に日本人の精神文化である『わび・さび』を心から味わった。

登別市にこんな美しい場所があるかと思うと、市民の一人として誇りに思った。そして、心豊かに憩える施設拡充のために、次のことを提案したい。

1. 全ての公園を紅葉化する。
2. 富士町の桜並木を両サイド化して、トンネル桜に計画変更する。
3. 川上公園規模の『桜公園』の新設
4. 川上公園秋の『絶景市民写真コンクール』の実施と写真展

開催

一方、その感動を打ち壊すものに『カラスの大群』がある。庭を荒らし、畑を荒らし、朝な夕なにけたたましく鳴きながら飛び回るのには全く閉口している。

この2、3年の間に異常繁殖しているのではないか。彼らの生態系を破壊しない程度の駆逐策を講じてほしい。そして今年、カラスのいない平穏な土地で静かに過ごしたいと心から願っている。

（片倉町/藤原正敏さん）

文化づくりはまちづくり

登別市文化協会は、来年（平成17年）創立40周年を迎えますが、市民のみなさんに喜んでもらえる記念事業を行いたいと考えています。

昨年12月14日（日）、創立40周年記念事業として、『文化ふれあいフェスティバルinのぼりべつ』を開催し、日ごろの活動ぶりを多くの市民のみなさんにご覧いただくことができました。

また、復活した『市民芸のぼりべつ』も第22号を発行しました。市民のみなさんが作品を発表できる場として、より充実した文芸誌になるようはぐくんでいきたいと考えています。



文化ふれあいフェスティバルinのぼりべつ

今、国と同じく、地方自治体も財政がひつ迫し、市町村合併にみられるように大きく揺れはじめています。このような中で、今後この登別をどのようなまちにつくりあげていくか、文化協会の果たすべき役割は大きいと考えています。わたしたち文化協会は、36団体約2千600人の会員が今以上に高いものを目指し、市民の間に文化のすそ野を大きく広げること、このことがまちづくりに参加することなのだと思っています。

今年も市民のみなさんの一層のご支援とご協力をお願いします。
（登別東町/小林碧水さん・登別市文化協会副会長）



登別市ときめき大学卒業式・修了式（2月25日）



合併に関する市民懇談会（1月31日）

2003年を振り返って①